

Close-up Interview (11月号 表紙の顔)



# 森 彩奈江

## SANAE MORI

「“優勝”はただの夢ではなく、はっきりと目標に変わりました」

キャリア15年目の森彩奈江プロ。P★League登場時には“シンデレラガール”と称されたが、これまで歩んできたボウリング人生は決して真っすぐな一本道ではなく、右に左に曲がりくねった“長くて遠い回り道”。否、そもそも道ははじめからあるのではなく、歩いた跡が道になっていくもの。回り道して苦労しながら、それでも歩みを止めない人は意外と強く、森プロもきっとその一人に違いない——。(PHOTO: 福地和男)

プロ入りまでの紆余曲折

両親と兄一人の家族はそろってボウリング愛好家。幼少期から父の手ほどきを受け、小学校5年生のときに初めてマイボールを持った。ほどなくしてJBCにも入会したが、中学時代は並行して部活でバスケットボールもやっていたという。

「ボウリングの大事な試合のときはバスケのほうを休んだり、反対にボウリングを休むこともあって、今思うと両方中途半端にやっていたような気がします(苦笑)」

卒業後は地元の県立静岡城北高に進学。軽音楽部でフォークソングのバンドに興じる傍ら、ボウリングでは1年先輩の片井文乃(43期)とともに全国高校対抗選手権制覇を目指し、1995年の第2回大会で見事優勝を果たしている。

大学は「ボウリング部に入りたくて」一浪して明治大学へ。在籍中、女子部員は森一人だったそうだ。

「リーグ戦には他校の女子部員、名和秋プロ(國學院大学/35期)とかと組んで出ていました。メイクチームなので、自分たちの成績は順位の対象外でしたが、大学でチーム戦の楽しさを知ったことで、ボウリングがますます好きになりました」

ちなみに、先ごろ急逝した和田幸二郎プロ(1期)は明大の大先輩にあたり、10月21日に都内で営まれた告別式(7面記事参照)には森の姿もあった。

「和田プロにはずっとボウリング部の面倒を見ていただいて、個人的にも長い間お世話になりました。ここ数年は疎遠になってしまっていて、連絡しなきゃと思いつつ、できずじまいだったのが悔やまれます」

大学時代「プロになることは考えていなかったし、なれるとも思っていなかった」森の背中を押してくれたのも和田プロだったのだが、両親の猛反対に遭い、一度は断念。卒業後は静岡に戻り、母親が営む学習塾を1年間手伝った後、静岡鉄道に就職した。

だが、その静鉄時代に出場した女子新人戦のアマの部で優勝したのを機に「どうしてもプロになりたい」と再度両親に直訴し、ついに説得に成功。難関のプロテストには二度ハネ返されたが、一転して愛娘の支援に回った両親の叱咤激励を受け、「これが最後」との覚悟で臨んだ三度目の挑戦で、晴れて合格を勝ち取った。



▲(左)プロ2年目に米国フロリダのケーゲルトレーニングセンターで「大事なものは再現性」と学んだことが、自身のボウリングの“核”になっているという(右)ボウリングを離れての一番の趣味は「スニーカー収集」。今回のロケ撮では、数多いコレクションの中からNIKEの「エアジョーダン1」をチョイスして履き下ろした

V逸もつかんだ手応え

今年ではやプロ15年目。プロテスト合格前から出演しているBS日テレの「P★League」では5度の優勝を飾っているが、JPBAの公式戦は未勝利。

今年10月の千葉オープン女子(前頁参照)では悲願の初Vを目前にしながら「絶対女王」姫路麗(33期)の分厚い壁に阻まれた。

「最初は準優勝できてうれしい気持ちのほうが大きかったけど、日が経つにつれて悔しさが込み上げてきて…。なかなかチャンスを逃してしまって『優勝への道は遠いな』と(苦笑)。実は千葉オープンの前に静岡に帰って、父と一緒にランクシーカーでジャパンオープンのときの動画を見ながらアドバイスしてもらったんです。ここまで支えてくれた両親への恩返しのためにも、千葉オープンに懸ける思いは強かったです…」

とはいえ、同大会準Vは4年前のJPBA創立50周年記念大会9位以来のひとケタ入賞、優勝決定戦進出はプロ3年目の女子新人戦以来という、キャリアハイの成績。今後への手応えはつかめたのではないだろうか。

「そうですね。正直、ルールが変わって素手で投げるようになってからボウリングに自信をなくしていたんですが、今回ようやく『ああ、こうやって投げればいいんだ』というのが少し見えてきました。新人戦のときは知らぬ間に決勝戦まで行って知らぬ間に負けちゃったみたいな感じだったけど、今回は気持ちのコントロールもうまくできて、自分が優勝する姿が初めて頭の中に描けた。「優勝」はただの夢ではなく、はっきりと目標に変わりました」



▲今回、取材場所を提供して下さったトモコシ高島平ボウルの副支配人・小林あゆみプロ(44期)と

出場が可能となった。

「もちろん、目指すのは優勝ですが、私はいいイメージも悪いイメージも引きずり過ぎて迷路にハマってしまうことがあるので、千葉オープンのようにフラットな気持ちで試合に臨めたいいなと思っています」

同様にこれから佳境を迎えるドラマへの出番は減ってしまうかもしれないが、ボウリングで“十二月の勝者”を目指すことこそが本分。19年シーズン以来2度目のシード入りも視野に入ってきたこの年末は、森彩奈江から目を離すな!だ。

目指せ!“十二月の勝者”

話は変わるが、森は現在、日本テレビ系列で放映中の連続ドラマ「二月の勝者—絶対合格の教室—」に「準レギュラー」として出演中だ。ドラマの舞台となる進学塾の講師たちが食事や休憩に利用するボウリングサロンの従業員という、ストーリーには絡まない(というよりエキストラに近い?)役どころだが、ちゃんと十柱戯球予(じゅっちゅうぎ・たまよ)というシャレの利いた役名があって、クレジットロールにも名を連ねている。

「リーグのスタッフさんを通じて出演のお話をいただきました。フリーの私なら契約の縛りもないだろうということで声がかかったんだと思います(笑)。地上波のドラマで、少しでも名前を知ってもらえるチャンスだし、撮影日が試合と重なるときは行かなくてもいいというので、喜んでお引き受けしました」

コロナ禍で2シーズンが連結されたJPBAの2020/21レギュラーツアーも残り4大会。千葉オープンの準Vで、それまで74位だったポイントランキングが27位までジャンプアップし、森はその4大会すべてに

取材協力: トモコシ高島平ボウル

森彩奈江プロと一緒に投げよう! 近日開催予定のチャレンジマッチ

- 11月14日 埼玉・ニューパールレーン武里
- 11月27日 神奈川・相模原パークレーンズ
- 11月28日 京都・アルプラザボウル亀岡
- 12月5日 神奈川・厚木ツマダボウル
- 12月12日 神奈川・神奈中平塚ボウル



もり・さなえ/1978年11月19日生まれ、静岡県出身。164㍉54㍉、右投げ。血液型A。2007年プロ入り(40期/ライセンスNo.429)。公認パーフェクト5回。20/21年度ポイントランキング27位、アベレージ200.45(千葉オープン女子終了現在)。P★League優勝5回(シーズン総合優勝1回)。フリー。